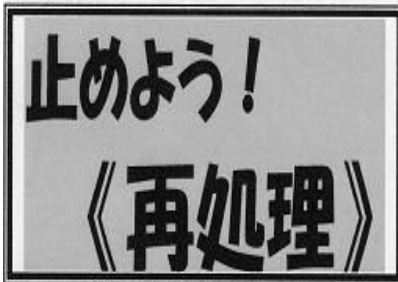


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coccan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
2021(令和 3年)
5月 27日
第217号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

岩手の会・抗議文を送付 菅義偉内閣総理大臣殿 原発事故汚染水海洋放出絶対反対! 環境基本法違反の暴挙



**日本は大量の放射能を
二度も世界にばらまくのか!**

菅政権は四月一三日東京電力福島第一原発の放射能汚染水を海洋放出するとの方針を閣議決定しました。二年後から原発のトリチウム濃度を基準以下とし実施する」とするこの無責任な決定に国内外から広範な反対の声があがっています。私たち「岩手の会」は菅内閣宛に左記の抗議文を緊急に送付しました。

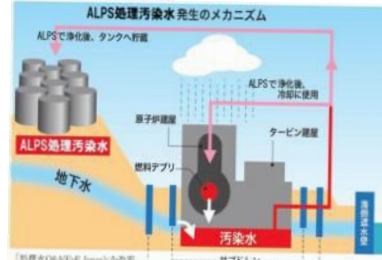
天恵の海に、除去できない放射性物質トリチウムを高濃度含む汚染水を放出することは自然への冒瀆であり国の責任の放棄です。

- 汚染処理水の海洋放出は環境基本法違反です。**
- 1993年11月に環境を守り将来に引き継いでいく国民の強い意思として衆参両議院とも全会一致で**環境基本法**が成立しました。
- 環境基本法**◇第三条：限りある環境を健全で恵み豊かなものとして維持すること。
- ◇第四条：環境への負荷をできる限り低減し持続可能な発展。
- ◇第五条：国際的協調による地球環境の保全の積極的推進。
- ◇第六条：国は、前三条に定める環境の保全について基本理念にのっとり、基本的かつ総合的な施策を策定し実施する責務を有する。
- 環境基本法の理念を全て否定することになると自覚してください。放射能汚染水の放出は 国による不法行為 です。法治国家では許されません。**

国民協働の真直な議論による判断を!

半減期による減衰を待つべきだ。トリチウムの生態系への影響を明らかにせよ

**炉心通過の汚染水
毎日約一四〇ト発生**



炉心のデブリを冷却した汚染水には多種多様な放射性核種が溶け込み塩分なども混じっています。六二種の放射性核種を除去出来るとするアルプス(多核種除去設備)を通過した「処理済み水」の約七割が法定放出基準を越えている」と報ぜられており、特に危険なセシウム137、ストロンチウム90、ヨウ素129などが残留しています。

アルプスで浄化できるのか?

デブリに含まれている核種は六二種類だけでしようか? 六二核種を見ると核分裂生成物ではない鉄、コバルト、ニッケルの核種が含まれています。しかし重量比で最も多く含まれるウラン核種や半減期が長いトリウム核種やプルトニウム242、ネプツニウム237などは含まれていません。汚染水に含まれている多種多様な核種の種類とその放射能濃度を全てについて明らかにし、処理装置でどれだけ除去出来たのかその都度公表すべきです。充填(吸着)材により一〇〇%除去出来るはずがありません。使用頻度により能力は低下していきます。アルプスによる処理方式は汚染水に含まれる放射性核種を厳密に除去しているのでしょうか。丁寧でわかりやすい情報公開をするべきです。

「一千基を越えるタンクに約一二五万トの汚染水」が溜まっておりその含有トリチウム総量は約八六〇兆ベクレルと言われます。海水で薄めて海へ流すとしても現在の分量を流すだけで「三〇年以上かかる」と公表されています。流している間にも、毎日一四〇ト(年間約五万トン)の汚染水が発生します。薄めて流してもトリチウムなど核物質の危険は変わりません。汚染水の元である地下水の流入を何とかして止め、更にデブリを冷却し閉じ込める工夫が必要であり、汚染水タンクも強固なものに換えるべきです。日本の知性を集め国民協働の真摯な議論による正しい判断が必要です。

トリチウム汚染水海放出で「マヌキ」が言わないうこと

豊かな三陸の海を守る会 山石間滋

トリチウムは本当に安全か？

私たちと共に運動を進める「豊かな三陸の海を守る会」の岩間滋さんが「トリチウム汚染水放出でマヌキが言わないこと」という所論を発表しました。そのうちの「トリチウムの内部被ばく」についての部分を要約し紹介します。（小見出しは編集部）

トリチウムのβ線は微弱？

トリチウムの出すβ線は確かに弱いエネルギーだ。水素の同位体（核に中性子が二個くつついていただけ）なのでほとんどが酸素と結合して水の分子として存在している。

有機トリチウムとなる

水素は炭素原子と結合して有機物を作る。これは光合成によって作り出される。生物の体を作る脂肪もタンパク質もたくさん水素を含んだ化合物だ。トリチウム水を海に流せば、海の植物プランクトンや海藻類はトリチウム水のトリチウムを有機トリチウムとして取り込み、自分の体の一部にするだろう。そして弱いβ線

でも周りの細胞にダメージを与える。それを食べる魚介類の体にも入りさらにそれを食べる人の体にも入るだろう。遺伝子の水素がトリチウムと入れ替わる時

さらにもっと大変なことが起きると指摘する専門家がいる。細胞内のDNAの一部としてトリチウムが取り込まれる可能性がある。DNAに取り込まれたトリチウムがβ線を放出した瞬間、それは水素でなくヘリウムに変わる。これは、DNAから水素原子が抜け落ちたことになりDNAにとつては致命的だ。今までは放射線が当たり傷をつくことを心配していた。これは自然界ではよく起こ

ることで、多量の放射線を浴びなければ修復される機能があると言う。しかしDNA自身を構成している原子が欠け落ちる時に修復できるのかは、科学として未知の分野だ。

有機トリチウムの食物連鎖を確かめよ

今、福島原発にトリチウム

神保哲生 VIDEO NEWS

分子生物学者
河田昌東氏
かわた まさはる
「トリチウムの人体への影響を軽く見てはならない」

有機結合トリチウムとは

◎生物細胞中の遺伝子（DNA）を構成する水素が、水素と同じ性質のトリチウムと置き換わった場合、β線（電子線）を発生しヘリウムに変わる。すなわち、トリチウムの中性子が陽子となりβ線放出し、不活性のヘリウムになった時、DNAの鎖に影響が起る。これは放射線の被害としては、照射とは全く違った遺伝子レベルの、放射性物質被害の形である。

◎試験管にトリチウム水を入れその中で大腸菌や酵母菌を培養するとタンパク質やDNAにトリチウムが取り込まれて、細胞内で水素と同じ性質のトリチウムが炭素などと有機結合する挙動が推察出来る。

◎カナダの原子炉は重水（陽子と中性子一つ）を冷却水とするが、その分トリチウムが多く発生する。原発がオンタリオ湖をトリチウムで汚染し、ダウン症など先天性遺伝子障害が発生しているという報告がある。有機結合トリチウムの発生とその被害によると思われる。

HYPERLINK
https://www.videonews.com/interviews/20210417_Kawata

会員投稿白板 本を紹介

「福島が沈黙した日

原発事故と甲状腺被ばく

神原崇仁 著、集英社新書

いやあ、本当にスリリングな本だ。スリリングというのは、著者は被ばくに関する情報を集めるにあたり、「情報公開請求」と「開示された文書に出てくる人物へのインタビュー」を主な手段としているが、例えば、情報公開請求をするときに、相手に請求の意図が分からない工夫をして、欲しい文書を手に入れるなど、駆け引きが中々上手い。意図を察知されると文書は無いこととされてしまうし、あまり隠すと請求の文書が見つからない。騙すか騙されるか、スリル満点。インタビューも相手が逃げられない様に申し込みをし、肝心の情報を吐かせるなど、スリル満点。

スリル満点などと言つては著者に変失礼。福島第一原発事故の（主に）三月十一日から三月

の末までの間の緊迫の出来事を徹底的に調査する調査報道の徹底ぶり、著者自身が抱く疑問を追って、とことん疑問の解明に努める姿には頭が下がる。双葉町から避難してきた少女、体の除染をするかどうかを判断するためのGMサーベイメータによる測定、ものすごい値、当然甲状腺被ばくもしているが、この情報は闇に葬られる。政府の行った甲状腺の被ばく測定、実に、原発から遠く離れた川俣町と飯館村、いわき市の子供たち千八十人だけ。原発近くの子供は避難したので余り被ばくしていないとの勝手な解釈で避難してきた子供の測定は放棄。

結局、放医研と文科省が被ばく隠しの犯人だとしか言いようがない。

(K & K)

『岩手交流会の通信』

349 2021 314